

北御牧村誌 歴史編II 目次

目次

第一節 県藩政治と村	題字	北御牧村長 小山 治
一 官軍嚮導隊事件	発刊のことば	第八節 口 絵
二 小諸領川西騒動	監修のことば	監修者 黒坂 周平
三 小諸藩から長野県へ	例 言	
四 戸籍づくり		
第二節 行政制度の成立と整備		
一 行政組織のあゆみ	1 警 察	21
二 地租改正と地域の動き	2 徵兵制	22
三 治安の維持	四 県会と地域	24
		25
第三節 産業の新たな動き		
一 御牧原の開墾	1 御牧原の開墾	25
二 産業の概況	2 産業の概況	28
第四節 庶民の教育		
一 学制の布達と地域に生まれた教育	1 学制の布達と地域に生まれた教育	35
二 原林・日就学校などの変遷	2 原林・日就学校などの変遷	35
第五節 明治前期の交通		

第一節 北御牧村の成立と発展	第二章 町村制下の村 第六節 警察と消防の充実	第一節 旧村内の道 第二節 千曲川・鹿曲川と橋 第三節 郡県制への参加 第四節 六か村の合併 第五節 交通・通信網の整備 第六節 捕丁・巡卒から巡査へ 第七節 巡査の回村—巡邏簿 第八節 水防と用水の工事 第九節 くらしのうつりかわり 第十節 家の独立と生業の自由 第十一節 戸数・人口・職業 第十二節 衣生活 第十三節 村祭り 第十四節 村芝居	1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26 27 28 29 30 31 32 33 34 35 36 37 38 39 40 41 42 43 44 45 46 47 48 49 50 51 52 53 54 55 56 57 58 59 60 61 62 63 64 65 66 67 68 69 70 71 72 73 74 75 76 77 78 79 80 81 82 83 84 85 86 87 88 89 90 91 92 93 94 95 96 97 98 99 100 101 102 103 104 105 106 107 108 109 110 111 112 113 114 115 116 117 118 119 120
----------------	----------------------------	--	--

一 北御牧村巡回駐在所の設置	三 広域問題
二 公設の消防組生まれる	四 御牧原の開発
第七節 明治の災害	五 自治活動と青年
一 水害	六 農民自治会の動き
二 電害	
第八節 くらしのうつりかわり	
一 住まいとくらし	
建物台帳	
第六節 母屋	
3 付属建物	
二 伝染病と西洋医学	
三 競馬の開催・芸妓規則	
第一節 選挙と政治の動向	
1 競馬の開催	
2 芸妓規則	
第三章 地方自治の拡大と村の発展	
第四節 大正デモクラシーと教育	
一 大正期における学校教育	
二 青年、婦人の活動	
三 農工補習学校の設置	
第一節 選挙と政治の動向	
1 村政のあゆみと選挙	
二 景気の波と財政	
157 155 155	151 149 149 144 140 132 131 131 131 129 126 126 122 120
197 194 190	184 183 183 176 174 173 170 169 168 166 164 162 160

第五節 鉄道と乗合自動車	202
一 重視される鉄道	202
二 布引鉄道の敷設	202
三 小池自動車と川西自動車	202
第六節 北御牧村駐在所新築と所属変更	207
第七節 大正の干害	210
第八節 庶民の楽しみ湯治	214
第四章 不況と戦争のもとで	219
第一節 恐慌のもとでの施策や財政	219
一 不況状況	219
二 村政の対応	220
三 県と村の取り組み	222
四 普通選挙の始まりと村政	226
第二節 戦時下の村	229
一 満州事変から日中戦争へ	229
二 戦時下の村びと	229

第三節 食糧増産と農村経済	237
一 農村不況と農業生産	240
2 昭和の恐慌	240
3 主要農産物の生産と技術	245
4 農産物の多角化と商品化	245
5 畜産物	251
6 重要特産物としての薬用人参	254
7 林業	258
8 そのほかの産業	259
第四節 昭和初期と戦時下の教育	261
一 御牧ヶ原農場の動き	261
二 戰時下の産業と農業生産	263
3 戰時下の産業と農業生産	265
4 中・小商業の没落	265
5 金融の統制	266
6 軍需生産への集中	267
7 戰時下の農業	267

一 不況下の学校教育への影響	269
二 戦時下的教育	270

第五章 民主化と村の生活

第五節 電力と通信

一 送電線の敷設	278
二 島川原の発電所	279
三 発電所の建設と用水	280
四 布下と島川原	280
五 羽毛山と郷仕川原	280
六 電話の架設	281

第六節 消防団から警防団へ

一 地区別消防組時代の活動	283
二 消防組の統一	283
三 北御牧村警防団の組織と活動	286

第七節 戦時下のくらし

一 空襲と灯火管制	299
二 防空演習	299
三 灯火管制	302
四 子どもの遊び	303
五 医療施設と伝染病	307

第一節 民主化と復興

一 敗戦と海外引き揚げ	313
二 村政の転換と財政	315
三 農地改革	317
四 災害と村の対応	321

第二節 民主改革と自治制

一 村政と二つの農協	325
二 公職選挙法と村の動き	327
三 地域と町村合併	328

第三節 経済の復興と発展

一 農業生産を主体とした産業	333
2 農業経営確立への模索	333
3 戰後における水稻の推移	334
4 農地改革と農村生活	342
5 農業生産の発展	351
6 稲作農業の発展と主要作物の推移	351
7 養蚕業の推移	353

第四節 新しい学制の発足と社会教育

一 北御牧小学校・中学校の発足	357
二 北御牧中学校校舎増築	357
三 教育委員会制度の発足	359
四 父母と教師の会（PTA）の結成	361
五 模索する社会教育	363
第六節 台地と鹿曲川沿いの交通	366
一 台地の生活と交通	372
二 鹿曲川沿いの橋と交通	372
第七節 戰後の消防団と新しい警察制度	376
一 戰後の消防団	376
2 警防団から消防団への改組	376
3 消防団の活動	376
二 戰後の警察と八重原駐在所	379
第七節 村人のくらし	382
一 自然災害の多発	382
二 戰後の娯楽	389
三 敬老会	393

第六章 北御牧村の発展

第一節 のびゆく村

一 経済成長と財政	401
二 全村健康への取り組み	403
三 村と浅間テクノポリス	406
四 水利事業の完成	409
第三節 住民参加と躍進の歩み	412
一 女性議員の登場	412
二 食文化と婦人活動	414
第四節 飛躍する北御牧村の産業	416
一 農業の振興	416
2 農業基盤の推移	416
3 農業生産の現状	416
4 新しい農業の動き	416
二 商工業の発展	426
三 観光開発とその発展	432

二	433
三	439
三	440

第四節 伸びゆく教育と文化

一 北御牧中学校下之城地籍への移転	443
二 北御牧中学校教育の歩み	446
三 北御牧小学校教育戦後の歩み	449
四 小学校の改革	451
五 新しい小学校での学習活動	455
六 保育園の発足と歩み	457
七 同和教育、あけぼの子ども会	460
八 青年団、婦人会の活動	464
九 文化財の保護・保全とその活用	468
第五節 交通・通信と現代	472
一 自動車の増加と道路整備	472
二 高速交通網と生活	475
三 通信網の発達	479
第六節 上下水道の整備	481
一 上水道の整備	481
2 1 近代的上水道のはじまり	481
2 村を潤す三つの上水道	481
二 下水道の整備	489

第七節 広域消防体制の確立

1 広域消防川西消防署の発足と充実	491
2 北御牧村消防団と広域消防の活動	496
3 社会の発展と安全の希求	498

第八節 公共施設の整備と地域のふれあい

一 公共施設	
--------	--

二 ゲートボール	
三 ゴルフ人口	
四 カラオケ	

第九節 人物

一 絵画・彫塑・文芸で活躍した人々	
-------------------	--

1 絵画・彫塑	
2 文芸 —俳句と二六詩—	

二 小山亨の業績と小諸城内対面所の移築	
---------------------	--

1 小山亨の業績	
2 小諸城払い下げによる三之門・対面所払請	

第十節 溜池

一 北御牧村の溜池	
二 溜池の歴史	

三 溜池とくらし

525

参考文献

歴史編II 調査協力者・資料提供者

歴史編II 関係者名簿

あとがき

編纂委員長 小林義介

- 一 武田耕の歴史
二 高麗文書跡の生古
一 自転車の歴史と古文書

参考文献

- 武 文山城の歴史・栗原の歴史
八 寄手町・鶴人会の歴史
九 同上
十 桃源園の歴史と古文書
十一 花園の歴史と古文書
十二 小学校の歴史
一 北御牧中学校の歴史と古文書
一 北御牧中学校の歴史と古文書

北御牧村誌歴史編II 正誤表

頁	訂正位置	誤	正
口絵	3 頁目上段 キャプション	八重原堰普請の 中小屋	八重原堰普請の 上小屋
384	表 24 の表題	昭和 34 年 伊勢湾台風の被害	昭和 34 年 台風 7 号の被害
384	下段 6 行目	伊勢湾台風	台風 7 号
460	下段 7 行目	太政官布告第一号	第一号を取る
528	地図番号 81 の 名称	今朝茂池	駿太池